

課題名：飼料用米の活用による特色ある肉用牛産地の育成
課所名：由利地域振興局農林部農業振興普及課

1. 取組の背景

秋田県由利地域は、県の南西部に位置し、稲作との複合作目として畜産が盛んな地域である。なかでも黒毛和種子牛は県内一の産地で、年間約2,000頭の子牛が出荷されているが、その8～9割は地域外に販売され、他産地で肥育、出荷されている。



この状況に対して、由利生まれの優れた子牛を地元で肥育し、繁殖と肥育が一体となった肉用牛産地を育成するとともに、「秋田由利牛」の銘柄確立を図るため、平成18年度から、生産者・市・JAと連携のもと「秋田由利牛振興協議会」を設立し、振興局事業による各種助成等を活用しながら、支援活動を行ってきた。

平成19年3月に「秋田由利牛」が地域団体商標として登録されたことを契機に、秋田由利牛のPR活動を強化し、県内における知名度は徐々に向上してきている。一方、現在、秋田由利牛として流通しているのは年間約100頭程度にとどまっており、販売価格も他の県産牛と同程度であることから、「個性化」による有利販売と競争力の強化が課題となっている。このような中、配合飼料価格の高止まりを背景に「飼料用米」の取組が注目され、隣接する山形県から飼料用米給与が肉質向上にも寄与している旨の情報が得られたことから、管内の農家が強い関心を持っていた。これらの状況を踏まえ「秋田由利牛」の振興を図るために、飼料用米給与の促進や肉質向上を目指して、平成21年から重点普及計画に取り上げ支援を行っている。

2. 活動内容

[平成18～20年]

地域振興局事業「由利牛肥育チャレンジプロジェクト」で農林部関係各課が連携して支援した。具体的には、JA部会、JA、市、県等からなる、プロジェクトチームを主体に、①肉用牛農家に対す



先進地事例調査の状況（H22）

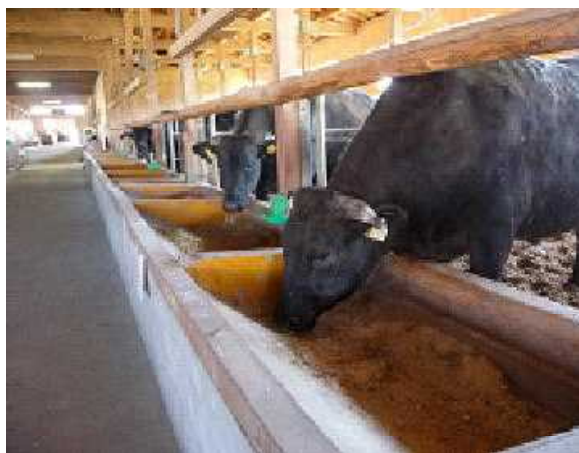
るアンケート調査による意向把握、②肥育マニュアル、啓発資料の作成、③先進地調査等により、地域の肥育牛振興を推進した。

〔平成21～22年〕

地域振興局事業「鳥海のめぐみが育む由利の牛応援事業」と一体的に普及計画で支援した。①農家や関係者とともに、先進地における、飼料用米の生産体制の整備や給与技術の確立に向けた事例調査の実施、②受精卵移植技術を活用した優良牛の普及推進や高品質牛(BMSNo上位牛)の出荷や肥育牛増頭農家に対する肥育素牛導入を振興局助成によって推進した。

〔平成23年〕

地域振興局事業「「とびだせ秋田！「由利の牛」全国発信大作戦！！」と一体的に重点普及活動で支援した。①秋田由利牛の高品質化推進のための飼料米利活用研修会の実施（県畜試等と連携）や飼料用米給与に対する助成で利用を推進、②県有種雄牛と優良雌牛の交配に対する助成による購買者ニーズに合った魅力ある牛づくりの支援、③秋田由利牛売り込みのために北東北インターハイ、首都圏スーパー等でPR活動を行った。



飼料用米採食風景

〔平成24年〕

地域振興局事業「羽ばたこう「由利の牛」目指すはオンリーワン」と一体的に重点普及活動で支援した。①秋田由利牛の個性化を推進するため、飼料用米利活用研修会の開催や飼料用米給与牛のPR販売、オレイン酸高含有牛への助成を実施、②県有種雄牛と優良雌牛の交配に対する助成による県有種雄牛産子の供給推進、③秋田由利牛の販売環境強化のための販売店・飲食店・管内道の駅と連携したPRや牛肉を活用した新たな商品開発を推進した。

3. 具体的な成果

(1) 先進地調査で、飼料用米給与の実施に弾み

平成22年2月、飼料用米の生産・利用の先進地である山形県において先進事例調査を実施した。その結果、飼料用米の生産や調整方など管内にも適用できる事項があったことから、参加農家は管内での実施に自信を深めた。

(2) 飼料用米生産・加工体制が急速に整備

畜産農家4名と法人1戸が、平成22年に「ゆり飼料用米利用組合」を設立し、飼料用米の加工と利用調整を担った。飼料用米の生産は、組合やJAの呼びかけに賛同した耕種農家が行った。更に、利用組合は、経営の拡大と安定化を目指して平成24年に「株式会社ゆりファーム」を設立したことで、地域の飼料供給の核ができた。

【由利地域の肥育牛への飼料米利用】

	作付		給与	
	戸数	面積(ha)	戸数	頭数(頭)
H22	8	8.1	2	30
H23	42	27.4	4	243
H24(見込)	32	27.3	4	250

(3) 肉質向上への基盤づくりが推進

肥育農家による試験的な給与を平成22年度は2戸、平成23年度からは4戸で行った。うち3戸を秋田県畜産試験場の現地試験農場に選定し、随時、勉強会を開催して試験結果を農家とともに検討した。

また、飼料用米給与による肉質向上効果を検討するため、畜産試験場と連携し、牛肉中のオレイン酸割合に関する調査を実施した。その結果、出荷前の6ヶ月間、日量0.5kg～2.0kgの飼料用米を給与した黒毛和種肥育牛で、脂肪交雑の成績が安定するほか、オレイン酸割合も高く、脂肪の質が改善されることが確認できた。

【飼料用米給与効果の調査における牛肉脂肪の分析結果】

(秋田県畜産試験場)

区分	頭数	脂肪交雑 (BMS No)	脂肪の質に関する項目			
			オレイン酸 (%)	不飽和度	脂肪融点	オレイン酸 55%以上率 (%)
飼料用米SGS給与区	10	6.5	55.3	2.6	21.9	60.0
対照区(慣行肥育)	7	5.6	52.5	2.3	22.7	0.0

(4) 飼料用米利用をした肉質改善促進の取組へ発展

平成23年度は、由利地域振興局独自プロジェクト事業により、飼料用米を給与した場合に1kgあたり10円の奨励金を交付し、給与の拡大を図った。

平成24年度は、飼料用米を給与した肥育牛のうちオレイン酸含有率が52.5%以上の枝肉に対して20千円/頭の奨励金を交付し、取組を支援している。

(5) 飼料用米給与が増加

肥育牛への飼料用米給与は、JA部会が推奨し、給与農家の増加につながっている。また、取組に関心を持っていた周囲の農家では、繁殖牛や乳牛にも利用し始めている。

(6) 飼養農家の意欲の向上

飼料用米給与を通じた取組が、農家の自信とモチベーションの向上につながっており、農家自ら「お米を食べさせて大事に育てている秋田由利牛」を合い言葉にアピールに意気込んでいる。

4. 現状・今後の展開等

飼料用米の給与効果のデータを蓄積して、より効果的な給与方法を検討し、更なる肉質向上を図るとともに、地域の給与頭数の増加に結びつけることが必要である。

設立された「株式会社ゆりファーム」を、地域の飼料生産・供給拠点として育成支援し、飼養頭数増加の基盤を確立する。

「お米を食べて育ちました」のキャッチフレーズで消費者に強くアピールし、秋田由利牛の個性化と競争力の強化を促進する。

